寄稿
地域おこし協力隊だより

挑戦する価値のある場所

田　谷　　慶
（横手市地域おこし協力隊）

はじめまして、横手市観光推進機構（DMO）所属、横手市地域おこし協力隊の田谷慶と申します。東京で20年以上にわたり旅行添乗業務や旅行商品販売業務に携わりました。また、羽田空港での旅客管理業務にも従事し、空港での業務では多くの旅行者と接して、様々な状況に応じてサービスや案内を行ってまいりました。

首都圏での業務を通して、ヒトとモノの流れに疑問を抱くようになりました。都心での生活が以前よりもエネルギーを要するものになってきていて、近場での買い物も人混みを避けるのが難しくなりました。平日であればまだしも、休日になるとますます人が多く、穏やかな時間を楽しむことが難しく、ヒトやモノが一極集中する中で、他の地域に移り住んで元気なまちづくりに貢献できないだろうかと考えるようになりました。

《横手との縁》

「唯一無二の場所で結婚式を挙げたい」という想いで、妻の実家がある秋田県内で挙式場を探していました。その時、大正時代の風情漂う外観に心を奪われ、国の登録有形文化財として登録された本館と蔵の風格に惹かれたのが、横手市にある「平源」でした。2015年に挙げた結婚式は、まさに私たちの想いを叶える特別なものでした。

また、妻の出身地である旧東由利町の出身者で構成されている「東京東由利会」への参加も、秋田の魅力や話題に触れる機会を提供してくれました。働き方を色々模索する中で、これらのことが、地域に根差し、深く関わりながら働きたいと思うきっかけとなり、秋田県への移住を考えるようになりました。

秋田県内で自分の専門業種で求職活動を続けた結果、観光事業を軸に地域に関わることができる協力隊の求人があり、横手市観光推進機構という組織で働く機会をいただきました。地域の成長や魅力を引き出し、観光客の誘致や観光振興を図るために、地元関係者と連携を重視している団体であることから、この仕事を通して地域の活性化に貢献できるということに魅力を感じました。そして横手市地域おこし協力隊としての採用が決まり、新たな挑戦に向けての一歩を踏み出すことになりました。

（クラシカルモダンな結婚式場「平源」）

《横手の魅力》

私の住む横手市は秋田県の内陸南部に位置し、奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた日本一大きな盆地です。四季折々に美しい風景が広がり、初夏には木々が鮮やかな緑に包まれ、秋には色とり

どりの紅葉が彩りを添え、冬には雪が積もって一面が白く輝きます。

特に雪に包まれた風景は幻想的で美しく、まだ誰も歩いていないまっさらの雪道や、太陽を浴びてキラキラと光り輝く山肌は、車を停めてでも眺めたくなる風景です。温泉、山、川などが身近にあり、市内から数分の場所で雪遊びや温泉巡りなど多彩なアクティビティが楽しめます。

何より自然との調和とともに豊かな暮らしを実現できるので、雪国への移住は魅力的だと改めて感じることができました。車でわずかの距離にスキー場があり、休みの日には天気が良ければコンビニに行く感覚でウインタースポーツを楽しむことができます。これは都心では絶対にできなかった経験です。

（雪を楽しむスノーシュー）

“かまくら”で有名な「横手の雪まつり」には、毎年多くの観光客が訪れます。冬のイメージが強い地域ですが、春には「桜まつり」や「あやめまつり」が開催され、夏にはサクランボやスイカ、秋には稲穂が実り、リンゴやブドウなど、様々なフルーツも楽しめ、四季折々に自然の恵みを享受できる環境も特徴です。横手市での生活は、伝統文化や郷土料理に触れながら、自然に囲まれ、美味しい食べ物と共に、心地よい暮らしを提供してくれています。移住して実感しているのは、横手はとにかく食の宝庫であること。農業のまちなので、穀類、野菜や果物などたくさんの農作物が作られています。

地元の方々が手がけた安全で新鮮かつ美味しい農作物を毎日堪能できる生活は、まさに理想的です。近隣の農家から野菜や果物のお裾分けを受けることも頻繁にあり、地元の温かさを感じながら日々を過ごしています。

活動してきた約２年間の経験を通して、地域との深い繋がりを築きながら、地元のお祭りにも参加させていただくなど、地域に根付いて活動する面白さを知ることができました。横手の魅力に包まれた暮らしは、有意義な時間の過ごし方や、学びや体験の機会を通じて「生きる」ということを実感させてくれます。

自然の中でリフレッシュし、新たな趣味や活動に挑戦することで、日常がより充実したものとなりました。

（横手の雪まつり「かまくら」）

（たらいこぎ競争）

《新たな賑わい》

横手駅前に「人が集ったり、つながったりすることができる施設」であることをコンセプトに掲げた新公益施設「Ａｏ－ｎａ（あおーな）」が今年９月に誕生します。当機構としてもこの施設を交流拠点として、地域の活性化に一緒になって取り組みたいと考えています。

駅前の機能を活かした空間は、誰もが気軽に訪れ利用することが可能で、若者の地元定着のほか、交流人口の拡大に結びつけられるような場所を目指しています。バスケットボールやダンスなどの軽い運動が楽しめる「アクティブエリア」や講演会にも利用可能なスタジオを完備します。２階と３階には、蔵書数19万冊の図書館が整備され、幅広い年齢層の方々が学びや遊び、交流を楽しむことができます。

「Ａｏ－ｎａ」ができることによりＪＲ横手駅東口周辺エリアの新たな賑わい創出が期待されています。この機会に、私も駅舎を含む周辺施設の特性を活かしながら、様々なイベント企画や発信を行っていきたいと思っています。

《ＤＭＯの役割》

10月には、ＪＲ北上線全線開通100周年を記念して、「横手駅東口まつり2024」が開催される予定です。沿線自治体や鉄道旅の魅力をアピールするとともに、100周年記念事業の一環として岩手・秋田間の交流人口や観光目的の鉄道利用者の増加を図るべく、駅前の各施設の機能を活かしたイベントを予定しています。

当地域の観光においては、日帰り客がメインで観光消費額が低いこと、長時間滞在してもらえるコンテンツが少ないことなどが課題となっています。現在、観光庁の補助事業の一環として、横手市の宿泊施設と観光施設の環境整備を進めています。改修自体が目的ではなく、これから観光客を迎える新たなスタートと考えていて、今後は観光客やビジネス客にさらに喜んでいただき、リピーターになってもらうことを目指し事業を推進していきます。地域全体が一体となって、事業者の皆さんと連携しながら磨き上げを行い、事業者だけではなく、将来的にその業種や業界に多くの効果やメリットをもたらすことを目標に頑張っていきたいです。

そのためにも、横手駅の観光案内所を情報提供の総合的な窓口として、外国人受入環境の整備や移動手段の確保、宿泊施設の魅力向上、地域ならではの食の提供、地産地消の推進、新しい郷土メニューの開発など、幅広い分野で国内外にアピールできるような魅力的な地域とするべく、観光を通じた地域の活性化を図っていければと思います。

各地域の状況や時代の潮流に応じて、地域における幅広い観光・交流の可能性、「観光地域づくり」を実践して、これからも地域社会に貢献しながら、自身の成長に重ねていく姿勢を持ち続け、新たなキャリアを展開していければと考えています。

（東京での移住フェア）

《今後の目標》

協力隊として活動していると、自身の活動がメディア等で取り上げられることも多く、自分の存在や活動が広く認知されるようになりまし

た。地域の魅力を広く伝える活動や地域の課題解決に向けた取り組みなど、微力ながらも自分の活動が地域に少しでも貢献できているという実感を得られることが、やりがいとなっています。

観光資源を活用した事業を通して、地域の魅力を伝え、何度でも訪れたくなる横手市を目指しています。地域の魅力が最大限に引き出され、新たな賑わいが生まれることで、横手市がますます注目を浴びると嬉しいです。

地域を知っている先輩方が身近にいることも大きな支えです。その経験や知恵を学びながら、事業にもチャレンジできる環境にあることは、本当に幸せなことだと思います。地域のルールや文化を尊重しながら、会社員としては経験できなかった地域貢献活動に参加できている喜びを感じています。

私の主に担当している分野は、地域の魅力をアピールするイベントの企画・実施ですが、今後も横手市が盛り上がるようなイベントを企画、あるいは参画することで、より一層観光振興にも力を入れていきたいと考えています。地域おこし協力隊になったこの決断は、地域への貢献と自己成長を同時に追求する一石二鳥の機会と捉えています。

これからも積極的に市内の多くの方（個人、事業者）と出会い、そこでの会話や交流を通して、新たな発見や感動を重ねていきたいと思います。

地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等を最大限に活かして、住む人にとって心地よい空間、訪れた人にはまた行きたいと思われるような地域を目指して、市の発展に寄与していくような活動をしていきます。

＜担当者から一言＞

横手市では令和６年５月１日現在、４名の協力隊が在籍しております。

今回寄稿した吉成隊員・田谷隊員のほか、市の魅力の発信に携わる隊員が1名、地元のリンゴを使った「ハードサイダー」を駆使して産業振興に携わる隊員1名が、それぞれ精力的に活動に取り組んでおります。

隊員の出自は、市出身者・県内の他地域出身者・県外出身者と様々ですが、隊員として「地域を盛り上げたい」という気持ちと“横手愛”は共通しています。

人口減少による人材不足が徐々に深刻化している現状で、市外の地域で培ってきた経験やスキルを基に地域おこしに取り組んでいる４人は地域資源を活かす最高の“プレイヤー”だと感じております。

今後も、隊員と地域住民、地元企業が一体となって活気ある地域をつくっていけるよう努めてまいります。

横手市まちづくり推進部地域づくり支援課
（現・財務部税務課）高橋　臣英